

岩国市埋蔵文化財調査報告 第7集

岩国城御土居跡

—吉香公園施設整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

2022

岩 国 市
岩国市教育委員会

序

本書は、岩国市を事業主体とする吉香公園施設整備事業に伴う、園路建設工事に先立っての発掘調査の成果をまとめた報告書であります。

この報告書が多くの方の目に触れ、埋蔵文化財についての認識を深め、学術研究や歴史教育の資料として広く活用されることを期待すると共にこの遺跡と遺跡を取り巻く歴史について知る一つのきっかけになれば幸いです。

最後になりましたが、地元住民の皆様をはじめとして、発掘調査の実施にあたり、多大な御協力を賜りました関係各位に厚くお礼申し上げますとともに、今後とも文化財保護行政について、格別の御理解と御協力を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

令和4年3月
岩国市教育委員会
教育長 守山 敏晴

例 言

- 1 本書は岩国市教育委員会が令和3年（2021）度実施した、岩国市横山二丁目地内の岩国城御土居跡の埋蔵文化財調査の成果報告書である。
- 2 埋蔵文化財調査は、岩国市を事業主体者とする吉香公園施設整備事業に伴う開発を原因として実施された。
- 3 調査の組織および担当は次のとおりである。

事 務 局	岩国市教育委員会文化財保護課
調 査 担 当	藤 田 慎一
調 査 補 助 員	舟 津 武好

- 4 本書中の方位は世界測地系による国土座標（第3座標系）の北で表示し標高は海拔標高である。
- 5 本書で使用した土色の色調表記はMunsell表色系による（農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帳』2007年版）。
- 6 本書に使用した図面・写真類及び出土品は岩国市文化財保護課で収蔵保管している。
- 7 本書中で使用した遺構略号は次のとおりである。また略号についた番号については調査時のものを使用している。
溝一SD
- 8 本書の作成は、岩国市教育委員会文化財保護課が行った。執筆、編集については、藤田が実施した。

目 次

I	遺跡の位置と環境	1
	地理的環境	1
	歴史的環境	1
II	調査の経緯と経過	3
	調査の経緯	3
	調査の経過	3
III	調査の成果	4
	基本層序	4
	遺構	4
	遺物	8
IV	総括	12
	遺構について	12
	遺物について	12
	おわりに	12

挿 図 目 次

第1図	岩国城御土居跡とその周辺 遺跡位置図
第2図	調査区位置図
第3図	基本層序模式図
第4図	調査区全体図
第5図	門跡・溝跡 SD01・SD02 実測図
第6図	石垣立面図
第7図	出土遺物（1）
第8図	出土遺物（2）
第9図	出土遺物（3）

写 真 図 版 目 次

写真図版1	調査区全景（南西から） 調査区全景（北東から）
写真図版2	門跡完掘状況（南から） 溝跡完掘状況（南東から）
写真図版3	石垣検出状況（南西から） 石垣検出状況（南から）
写真図版4	出土遺物（1） 出土遺物（2）

I 遺跡の位置と環境

地理的環境

岩国城御土居跡は錦川下流域の大きく蛇行する箇所⁽¹⁾に立地する。錦川は幹線流路延長が110.3 km、流域面積は889.8 km²で距離、面積ともに山口県下最大の河川である。遺跡は錦川の右岸にある城山の山麓部に近世に形成された城下町の中心部に立地している。

歴史的環境

岩国城御土居跡が立地する錦川下流域では平野部の発達形成が遅く、古代以前の遺跡は少ない。本遺跡から東の丘陵地上には弥生時代の錦見遺跡⁽⁵⁾、大円寺山遺跡・亀尾城跡⁽⁶⁾が確認されている。古墳時代は、江臨寺谷横穴⁽⁴⁾が確認されている。江臨寺谷横穴は、昭和31年(1966)に宅地造成中に発見された。横穴の規模、形状等については不明であるが、人骨のほか、古墳時代後期の土師器、須恵器、鉄器が出土している。遺物から横穴の年代は6世紀後半と考えられる。

古代は、確認されていないが本遺跡の北、錦川の蛇行箇所⁽¹⁾の左岸に位置する関戸の地に『延喜式』に記述されている石国駅家⁽⁸⁾が比定されている。石国駅家は古代に官道として整備された山陽道に設けられた施設の一つであり、『延喜式』には「周防国駅馬石国、野口、周防、生野、平野、勝間、八千、賀宝各廿疋」とあり、駅家には駅使と呼ばれた役人が官道を通行するための駅馬が常備されていた。

中世には本遺跡が所在する横山の地には、周防、長門両国の守護として勢力を拡大した大内氏第24代の弘幸がこの地に永興寺を延慶2年(1309)に建立し、その子、弘世がさらに寺の整備を行い、伽藍を充実させた。横山の地は北側、西側に山陽道、東側は瀬戸内海を見据える地にあることから、大内義興や義隆による軍事的行動の際の陣所としての利用もなされた。また、毛利元就による防長侵攻の際にも永興寺が陣所となっており、寺院としてだけでなく軍事拠点的な性格も有していた。この中世永興寺に係る遺構は確認されていないが、中世の遺構や遺物が横山の地でも確認されている(岩国市教委 2020)。本遺跡内の調査でも鍛冶遺構と考えられる焼土層や鉄滓のほか15世紀代の土師器坏、皿が出土している。

そして、本遺跡の東の丘陵地には大円寺山遺跡・亀尾城跡⁽⁶⁾が所在する。亀尾城は大内氏の家臣であった弘中隆兼の居城と伝えられている。

近世になると、吉川広家が岩国に入府し、城山の山上部に岩国城⁽²⁾を築き、山麓部の横山の地には本遺跡をはじめ、蔵などの公的施設や上級、中級の武家屋敷を整備し、錦川を外堀に見立て、堤防としての機能も持たせながら「総構え」としての石垣も築いている。さらに、下級武士や町人の居住のために横山より上流側の千石原、対岸の錦見側へも城下町を拡張整備を行った。そして、本遺跡の周辺には18世紀以降に、皿山窯跡⁽³⁾、吉向・岩国山窯跡⁽⁷⁾、多田窯跡⁽⁹⁾といった窯が築かれ、陶器、磁器が焼かれていた。

近代以降は、本遺跡の敷地には吉香神社が遷座し、神社の境内地としての利用がなされ、現在は吉香公園としての土地利用もなされている。



- ①岩国城御土居跡 ②岩国城跡 ③皿山窯跡 ④江臨寺谷横穴 ⑤錦見遺跡
 ⑥大円寺山遺跡・亀尾城跡 ⑦吉向・岩国山窯跡 ⑧石国駅家推定地 ⑨多田窯跡

第1図 岩国城御土居跡とその周辺遺跡位置図

Ⅱ 調査の経緯と経過

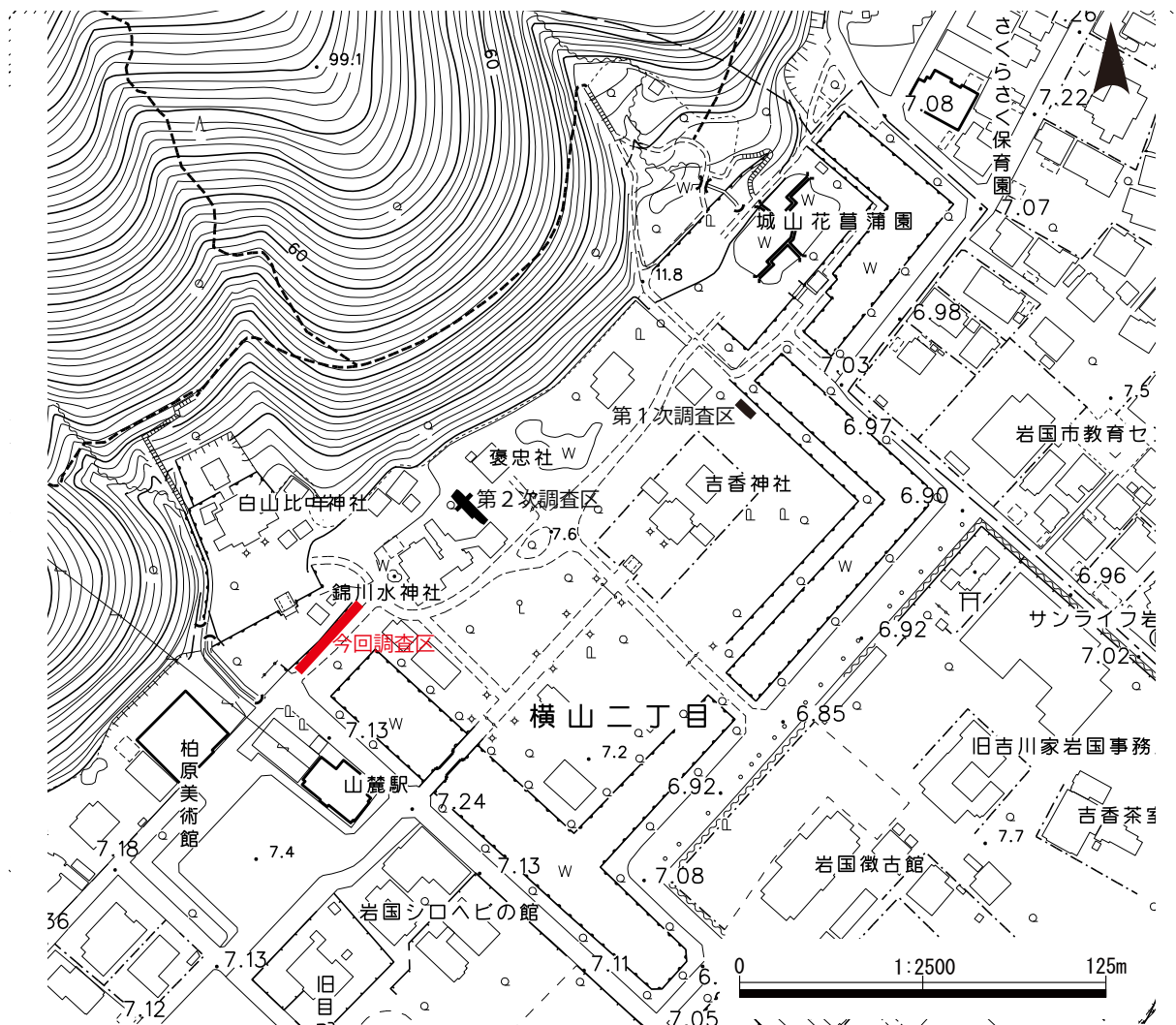
調査の経緯

吉香公園施設整備事業における園路建設に伴い、開発部局である都市開発部公園景観課および山口県教育庁社会教育・文化財課との調整、協議により岩国城御土居跡内の園路建設範囲のうち、記録保存が必要な箇所の本発掘調査を実施することとした。

調査の経過

本報告書は、岩国城御土居跡における第3次の調査成果を収録している。現地調査は令和3年（2021）4月19日から開始した。人力による遺構確認面までの掘削、遺構の掘削、記録作業を経て、6月4日に調査区の埋め戻しを行い、調査を終了した。

現地調査終了後、遺物整理、図面整理等を行い、報告書の作成作業を実施し、令和4年（2022）3月31日に本書を刊行した。



第2図 調査区位置図

Ⅲ 調査の成果

基本層序（第3図）

調査区は現代の整地層である表土（Ⅰ層）が約 20 cmの厚さでひろがり、その直下になぶい黄褐色土の整地層（Ⅱ層）がひろがる。Ⅱ層は、御土居の建物が解体される明治 4 年（1871）以降の整地層である。約 50 cmの厚さでひろがり、近世～近代の遺物を包含する。Ⅲ層は約 50 cmの厚さで褐灰色土の整地層である。層の上面で門跡、溝跡を確認した。中世から近世の遺物をわずかに包含する。そして、Ⅲ層の下には無遺物の砂礫層がひろがる。

遺構（第4・5・6図）

今回の調査ではⅢ層上面の検出面で門跡 1 基、溝 2 条が確認された。

門跡

調査区の北東隅で確認された遺構で、石垣 2、石垣 3 で区画されている。規模は検出長で石垣 2 で 3.96 m、石垣 3 で 2.18 m、石垣の残存高は 0.70 ～ 1.05m をはかる。

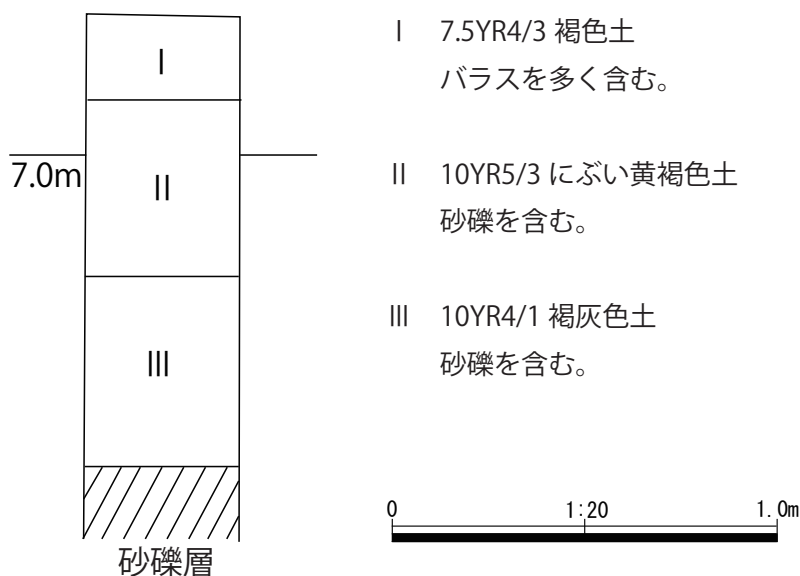
上部は近代以降に削平を受けており、構造は不明である。「御城平面図」（岩国徴古館蔵）によると白山門に伴う物見櫓の基底部分と推測される。

溝跡 SD01

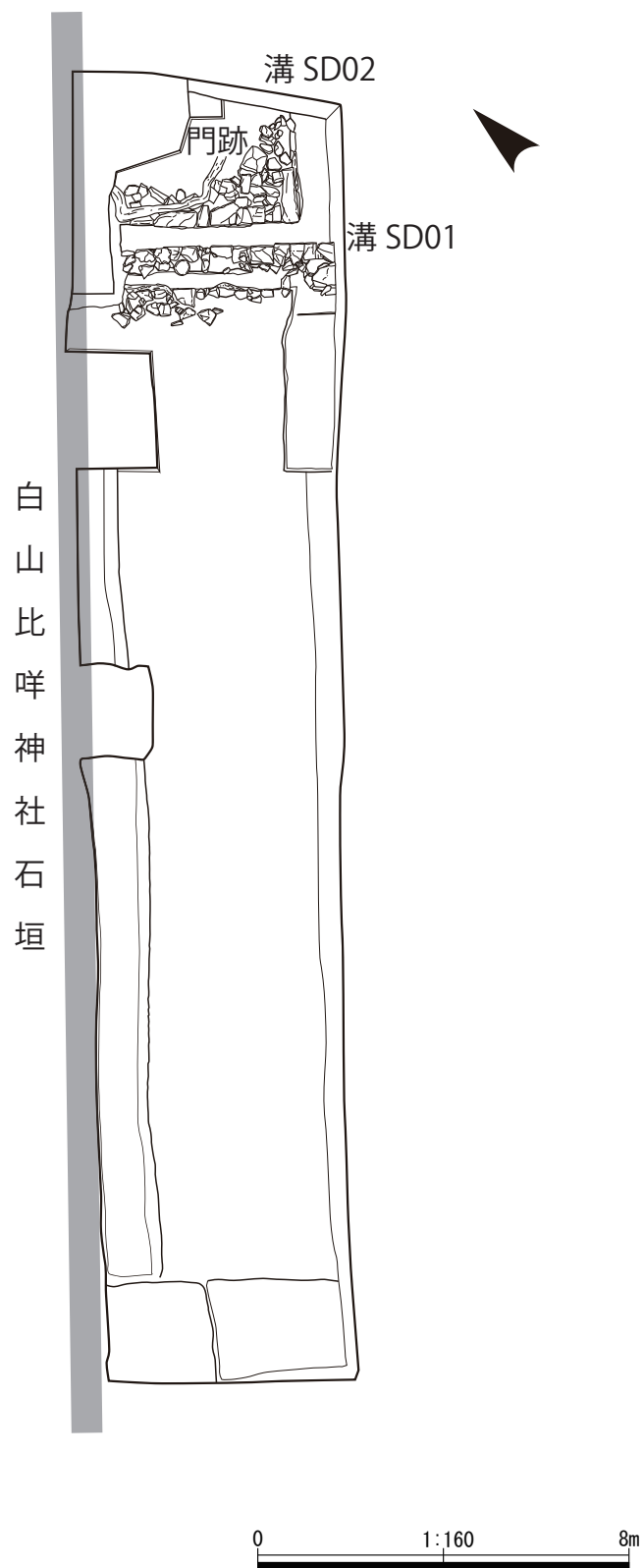
調査区の北東側で確認された北西から南東方向に延びる溝である。規模は検出長で 4.56 m、幅 0.50 m、深さ 1.05 mをはかる。検出部分の多くを石垣 1、石垣 2 に挟まれている。断面形状は箱状を呈する。埋土は黒褐色土である。遺物は瓦が出土している。

溝跡 SD02

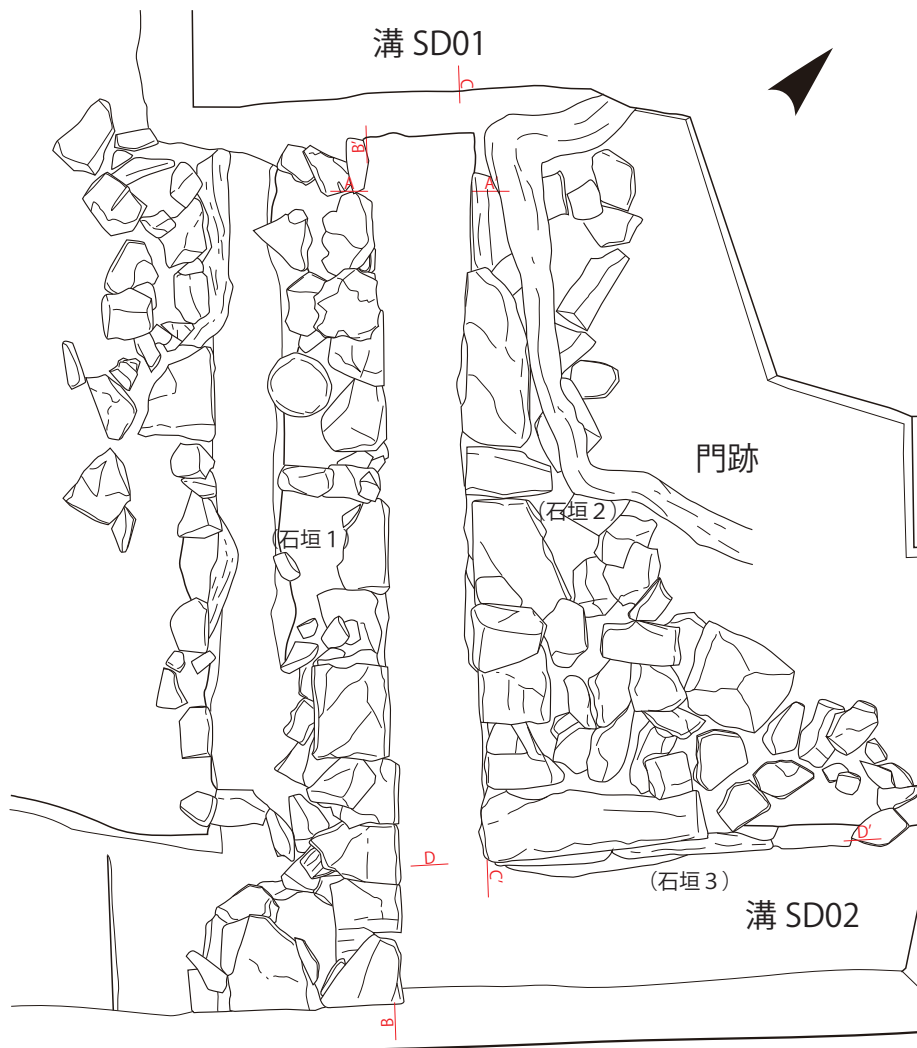
調査区の北東側で確認された北東から南西方向に延びる溝で、溝跡 SD01 と直交する溝である。規模は検出長で 2.80 m、検出幅で 0.80 m、深さ 0.90 mをはかる。北西側の側面は石垣 3 となっている。断面形状は箱状と推測される。埋土は黒褐色土である。遺物は瓦が出土している。



第3図 基本層序模式図

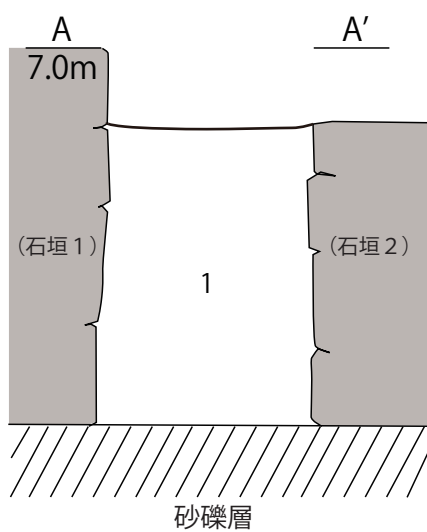


第4図 調査区全体図



0 1:40 2.0m

(平面図)



1 2.5Y3/1 黒褐色土
砂礫を多く含む。

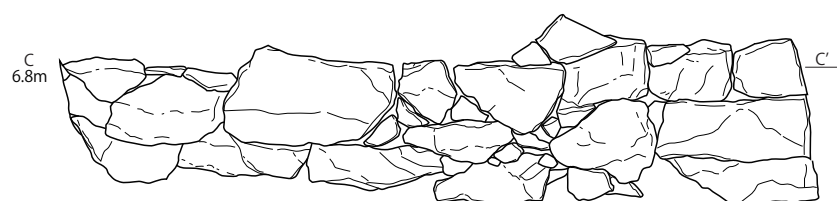
0 1:20 1.0m

(断面図)

第5図 門跡・溝跡 SD01・SD02 実測図



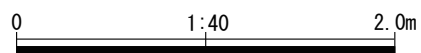
(石垣1)



(石垣2)



(石垣3)



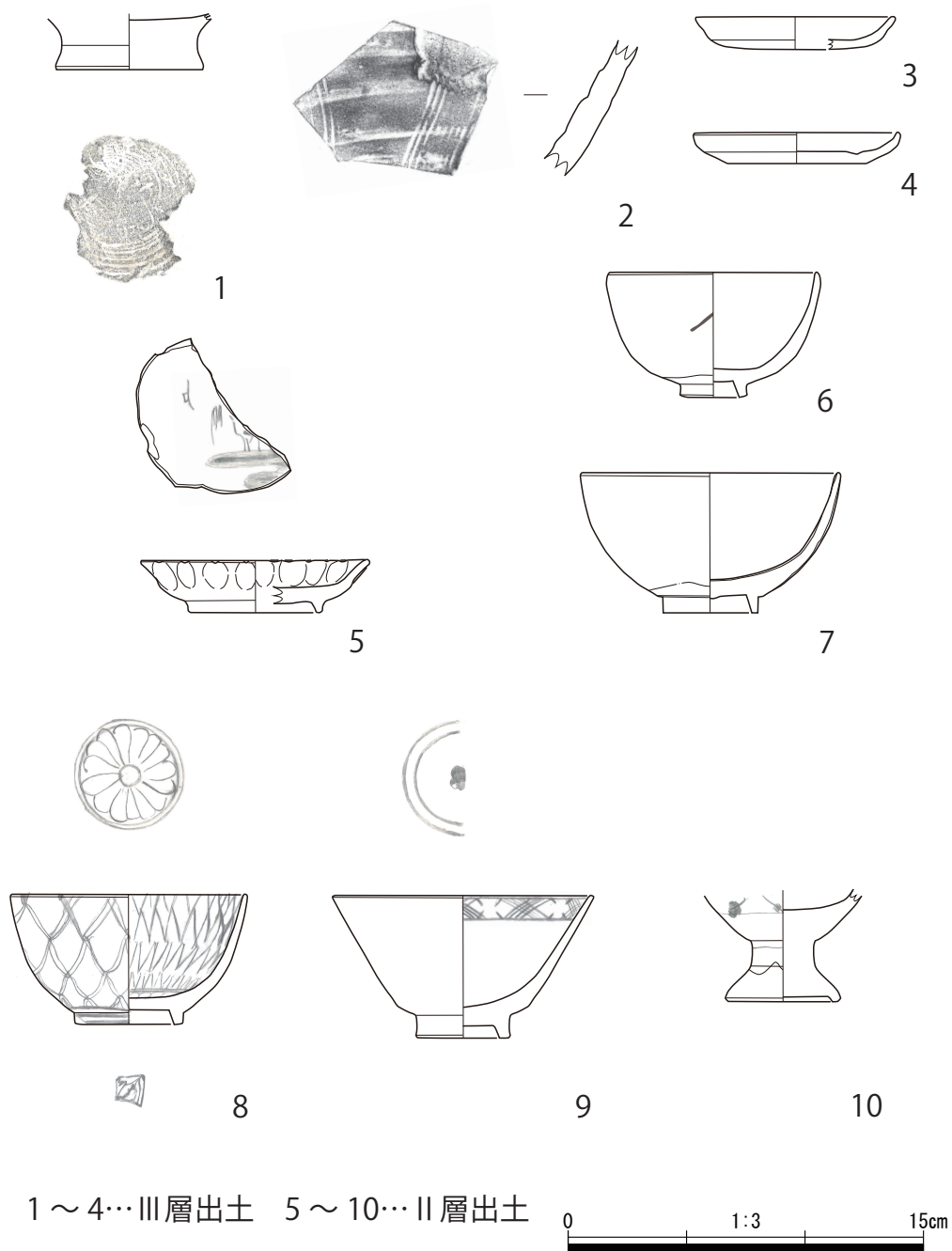
第6図 石垣立面図

遺物（第7・8・9図）

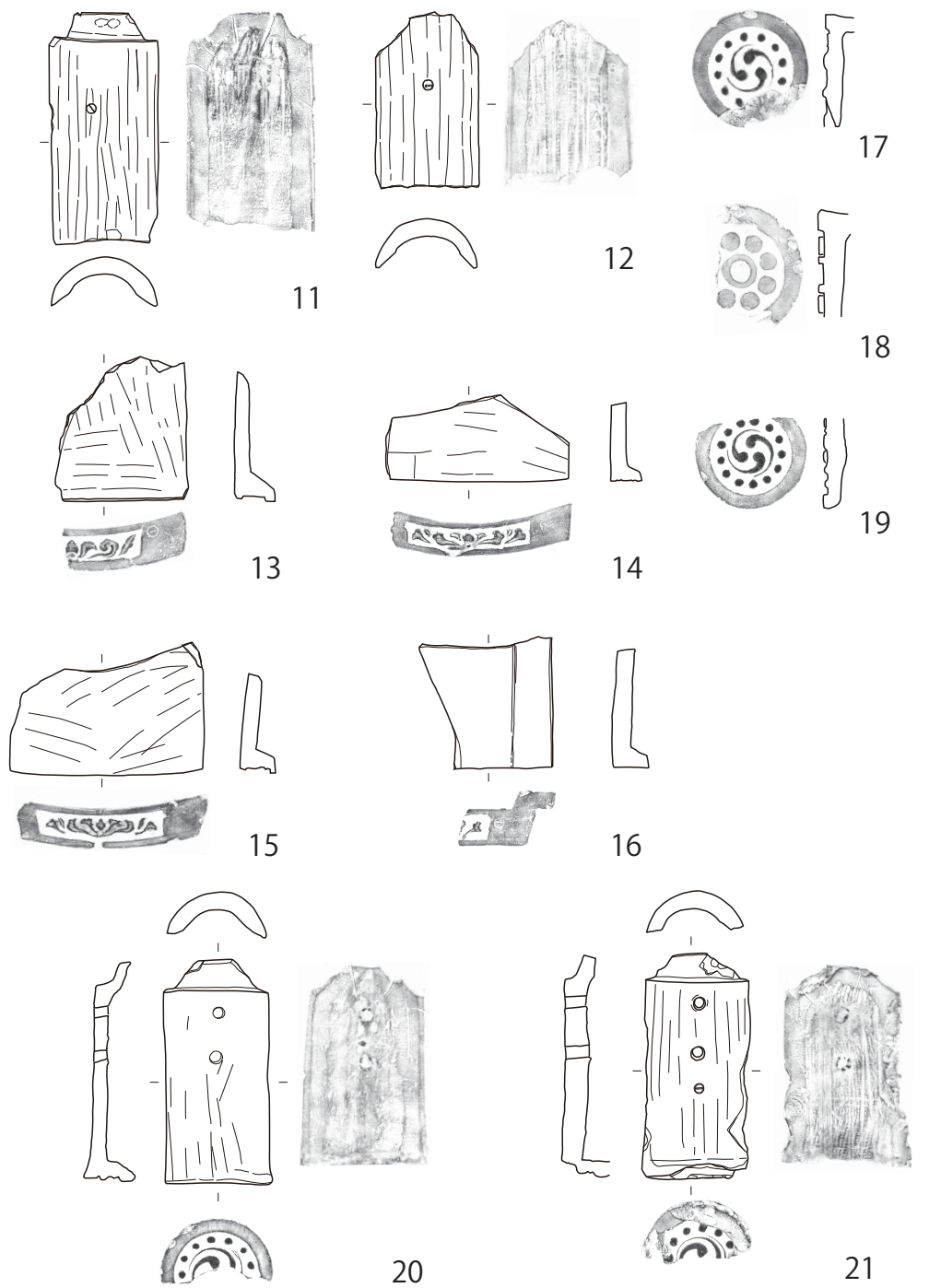
出土遺物について、整地層であるⅡ層、Ⅲ層および溝跡から出土している。中世の遺物はⅢ層から土師器、備前が出土している。近世の遺物はⅡ層、Ⅲ層、溝跡から陶磁器、瓦が出土している。

1は土師器で柱状高台をもつ坏の底部である。底部には糸切り痕が残る。12世紀に位置づけられる。2は備前播鉢で、内面に8条1単位の卸目が付される。15世紀に位置づけられる。3、4は土師器皿で、時期は近世のものと考えられる。5は肥前系磁器の輪花皿で、見込みには動物文が付される。時期は19世紀である。6は京焼の碗で、時期は18世紀後半である。7は高取系の碗で時期は18世紀後半以降である。8は肥前系磁器の碗で、外面に網目文、内面に格子文、見込みには菊花文、底部には窯印が絵付される。時期は18世紀後半から19世紀である。9は肥前系磁器の碗で、内面には花菱文、見込みには二重圏線と五弁花が絵付けされる。時期は18世紀である。10は肥前系磁器の仏飯器である。外面に草文が絵付けされる。時期は19世紀である。

11～23は瓦である。瓦の産地としては御庄産あるいは多田産と考えられる。11、12は丸瓦である。ともに凸面に丸に一のスタンプが付されている。時期は19世紀と推測する。13～15は軒平瓦である。瓦当面には唐草文を配す。そして、13には窯印として六角に一のスタンプが付されており、旧目加田家住宅の当初瓦にも存在する（財団法人文化財建造物保存技術協会1979）また、14には花に一のスタンプが付されている。軒平瓦の年代については18世紀後半から19世紀前半と考えられる。16は軒棧瓦である。瓦当面には唐草文を配し、13と同じく六角に一のスタンプが付されている。19世紀代と推測される。17～21は軒丸瓦である。18が藩主吉川家の家紋である九曜文で、これ以外は中央に巴文、周囲に珠文を配す。軒丸瓦の年代は巴文のものは18世紀後半から19世紀前半、18の九曜文のものは、現在でも白山比咩神社で葺かれているものに近く、19世紀後半以降と推測する。22は板状の瓦で隅に穿孔がされている。棟瓦の一部と推測される。23は飾瓦の破片で「十時藤四郎 細工人 □郎」の刻書がある。刻書の「十時藤四郎」は御庄の瓦師で、明治30年の厳島神社の修理にも関わった人物であることから（宮田 1973）、19世紀末から20世紀初頭のものとして推測する。瓦は掲載しなかったものも含めて、おおむね18世紀後半以降ものと推測される。



第7図 出土遺物（1）

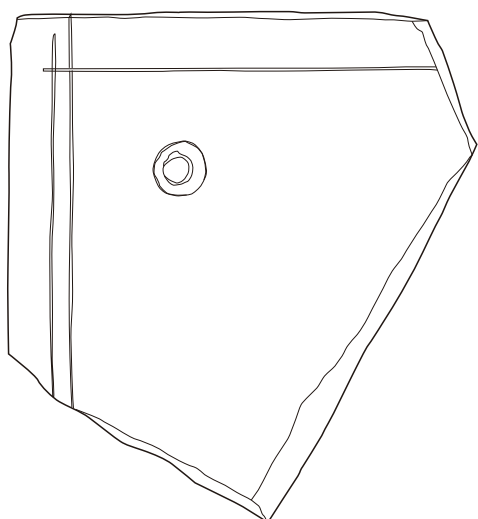


11、15、19、20…溝跡 SD02 出土

12～14、16～18、21…II層出土

0 1:8 40cm

第8図 出土遺物（2）

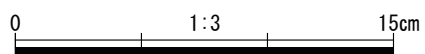


22



23

22、23…Ⅱ層出土



第9図 出土遺物（3）

IV 総括

遺構について

今回の調査では調査区の北西隅で遺構が確認されたのみで、大半は明治4年（1871）の廃藩置県後に行われた御土居の解体以降に造成された整地層が広がっている状況であった。

確認された遺構は門跡と溝跡のみであった。門跡は櫓の基底部と考えられ、「御館平面図」（岩国徴古館蔵）にある白山門に付属する物見櫓と推測する。ただ、出土遺物等から吉川広家が築いた御土居成立当初のものとは考えられない。

遺物について

中世の遺物は土師器の柱状高台坏や備前播鉢が出土している。時期は土師器が12世紀代、備前播鉢が15世紀代である。土師器の出土から中世永興寺の成立以前にも、横山の地に集落があったと推測出来る。

近世の遺物は陶磁器と瓦が出土している。陶磁器はおおむね18世紀から19世紀のもとと考えられる。瓦はおおむね旧目加田家住宅の当初時ものに近く、その多くが18世紀後半から19世紀代と見られる。

おわりに

今回の調査では御土居に付属する施設の一部を確認した。本調査区は、御土居の南西隅のわずかな面積を調査したのみであるため、今後も調査を継続しながら御土居の時期的変遷を明らかにしていきたい。

参考文献

- 岩国市・岩国市教育委員会・山口県教育委員会 1995 『岩国城跡（天守）』
岩国市 2019 『錦川下流域における岩国の文化的景観保存調査報告書』
岩国市 2021 『錦川下流域における錦帯橋と岩国城下町の文化的景観保存活用計画』
岩国市教育委員会 2005 『岩国城下町 岩国市岩国地区伝統的建造物群保存対策調査報告書』
岩国市教育委員会 2012 『中津居館跡（旧加陽和泉守居館跡）』
岩国市教育委員会 2016 『中津居館跡Ⅱ』
岩国市教育委員会 2017 『玖珂本陣・代官所跡』
岩国市教育委員会 2020 『市内遺跡発掘調査報告書Ⅰ』
岩国市教育委員会 2021 『中津居館跡Ⅲ』
財団法人文化財建造物保存技術協会 1979 『重要文化財 目加田家住宅修理工事報告書』（岩国市）
宮田伊津美 1973 「岩国の瓦」『山口県地方史研究』29（山口県地方史学会）
山口県教育委員会 1990 『山口県の諸職』



調査区全景（南西から）



調査区全景（北東から）

写真図版 2



門跡完掘状況（南から）



溝跡完掘状況（南東から）



石垣検出状況（南西から）



石垣検出状況（南から）

写真図版 4



出土遺物 (1)



出土遺物 (2)

ふりがな	いわくにじょうおどいあと							
書名	岩国城御土居跡							
副書名	吉香公園施設整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ名	岩国市埋蔵文化財調査報告							
シリーズ番号	第7集							
編著者名	藤田慎一							
編集機関	岩国市教育委員会							
所在地	〒741-0081 岩国市横山二丁目 6-51 TEL 0827-28-5353 FAX0827-28-5677							
発行年月日	2022 年 3 月 31 日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積 ㎡	発掘原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° ' "	° ' "			
いわくにじょうおどいあと	やまぐちけん いわくにし よこやま	35208		34° 10' 17"	132° 10' 31"	20210419	200	公園整備
岩国城御土居跡	山口県 岩国市 横山					～ 20210604		
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
岩国城御土居跡	城館跡	近世		門跡・溝跡		陶磁器・瓦		
要 約	居館の南西隅にある門の一部を確認した。							

岩国市埋蔵文化財調査報告 第7集

岩国城御土居跡

—吉香公園施設整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

発行年月 2022 年 3 月

編集・発行 岩国市教育委員会（文化財保護課）

〒741-0081 山口県岩国市横山二丁目 6-51

印刷 フジ美術印刷株式会社

〒740-0017 山口県岩国市今津町二丁目 2-2-52